

～経営情報システム 模試解説講義 SUMMARY～

今回の模試を使った直前期対策の目標設定と取組み方を説明します。

それぞれの問題を網羅的に解説する内容ではありません。

☆対策内容の説明として例として使用する問題は、第 1 問、第 2 問です。

☆出題領域の説明として使用する問題は、第 9 問、第 19 問、第 25 問です。

<板書事項>

今年は昨年と同様の傾向、同様の難易度の本試験と想定。

→確実に 6 割を超える状態を目指す。

目標としては、68 点 (25 問中 17 問正解) 8 問不正解で OK。

☆対策を行っても正解が期待しにくい領域

ガイドライン・法律系 2 問

統計 (検定等) 2 問

★もちろん、選択式なので、結果的に正解はあり得る。

↓

定番の領域 (ハードウェア、ソフトウェア、ネットワーク、セキュリティ) は確実に得点できる状態に仕上げていく (これから)。

★ソフトウェア開発に関しては、難易度が低い場合は、もちろん正解できる状態を目指す。

↓

☆解答の組み合わせタイプは少ないので、選択肢単独で「正誤」が判断できる精度の高い知識が必要となる。

☆現時点で知らない用語は、覚える対象に基本加えない。

例)

第 1 問 ☆ウ単独で解答できる状態になる。

ア USB は知っているが、ここまで具体的な知識はない。→それでよい。

イ 「IEEE1394 はシリアル」という知識で、不適切と判断する知識は必要。

エ こんなことは知らない。→それでよい。

☆知らない内容が含まれる選択肢は検討対象からはずすこと！

USB について、どれだけ知識を引っ張り出せるか？←これを確認したい。

→今後、何度もやってみる (それが直前期の対策！)

例) USB シリアル 最大 127 台まで接続可 カスケード接続

3.0 はこれまでの 10 倍のスピード HDD も利用可

第2問 ☆アイウがそれぞれ不適切であることと判断できる状態になる。

ア 仮想記憶は主記憶と補助記憶だから不適切。

イ キャッシュは速度ギャップを埋めるものであり、容量を増やすものではないから不適切。

ウ 計算すると、16 ナノなので、不適切。

例) 仮想記憶 主記憶と補助記憶 スワッピング → 多発 スラッシング
策：主記憶の容量を増やす

☆直前期にいちいち問題を処理して、できるかどうかを試すことに時間を割くのは得策ではない。

☆復習の重要度◎の各選択肢の内容、そこに出てくる用語の知識を整備していく。

☆本試験問題を使用する場合も同様。

特に今年、領域的に重視したいところ。

第9問 IP アドレス

IPv4 32 ビット	IPv6 128 ビット
43 億通り	天文学的な数→枯渇する可能性なし
10 進数表記	16 進数表記
172.13.0.10	FFEE.AB88・・・ A～F も使う

第19問 ハイブリッドは難しい。

☆単なる公開カギは対応したい

判断するためのルール ☆この2つだけで正解を選択できる。

① カギはセットになっている（送信者の公開・秘密、受信者の公開・秘密）

→送信者の公開カギで暗号化し、受信者の秘密カギで・・・といったものはありえない。

② 秘密カギを使うのは本人のみ。

→送信者は、受信者の秘密カギを使って暗号化し・・・といったものはありえない。

問題が「暗号化」に関するものだったら、→ 使うのは「受信者のカギ」

これをしっかり覚える。

問題が「デジタル署名」に関するものだったら → 使うのは「送信者のカギ」

第25問 ★基本的に統計系は対策の対象からはずすが、次のことだけは覚えておこう。

☆平均値の比較か？YES だったらチャンスあり。

↓その場合は、t 検定か分散分析しかない。

☆比較対象は2つか、3つ以上か？

2つ → t 検定

3つ → 分散分析

これを活かすと、設定が平均値の比較でなければ、t 検定でも分散分析でもない。